

三種の神器の一つである草薙神剣をまつる屈指のパワースポット、熱田神宮を擁する名古屋市熱田区。

緑濃い神宮の森だけでなく、熱田神宮公園や古墳もある白鳥庭園、白鳥公園などもあり、子育て世代にも人気のエリアだ。

今回の舞台は、その熱田区内にある白鳥パークハイイツ大宝（大宝団地）である。名古屋市営名港線の日比野駅から徒歩約10分の地にあり、名古屋駅まで最短12分という地の利も魅力のUR賃貸住宅だ。

この団地の集会所で、今から遡ること約2か月の3月18日。「こたつ」をキーワードにした、ユニークなイベントが開かれた。「自分の居場所をつくる」IIプレイスメイキングと題されたイベントの様子をレポートする。

○大人も子どもも楽しめるイベント

「今回のイベントは、団地の活性化

があるし、新しい本も見られて、子どももうれしそう」というお母さんに「こういう催しは、子どもも大人も楽しめていいですね。また機会があれば、ぜひ参加したい」とお父さんが言葉を継ぐ。

子どもたちとゲームで大盛り上がりしていたおもちやコンサルタントの女性は、いっしょに遊んだり、おもちやの遊び方を教えた

「東京おもちや美術館から無料でおもちやをお借りして、ボランティアで活動しています。子どもが喜んで遊んでいる様子を見るのは楽しいですし、こういう集会所があると、雨の日でもイベントができていいですね」と話す。

○団地を地域の資源として活用する

子どもはおもちやや絵本で楽しく遊び、大人は



こたつに入って団地の未来を語るユニークなイベントを開催

愛知県名古屋市 白鳥パークハイイツ大宝
大宝団地 PLACEMAKING
2023年●令和5年～



阿部民子 text by Tamiko Abe
Illustration by Shigeyuki Sakata

やコミュニティの形成を通じて、居住者の方々が知り合ったり、つながったりする場をつくろうと企画しました。大宝団地では、昨年の5月にも『大宝フェスタ』と称した屋外イベントを開催しています。その際は、フリーマーケットなどを設けて、来場した居住者の方のお話をお聞きしたのですが、今回はさらに、お住まいの方々が団地をどう使っていきたいのかをじっくりお聞きしたい、と、膝をつき合わせられる『こたつ』でおしゃべりする、というイベントにしました」と話すのは、企画を立案したUR中部支社住宅経営部ウェルフェア推進課の成田遼だ。

こたつでまったりしながら、普段はできないおしゃべりをする…そんななかから「コミュニティづくりのきっかけとなる、一つの成果が生まれました」と、成田が声を弾ませる。「団地で活動している子ども会があるのは以前から聞いていましたが、

今まで接点がありませんでした。今回、偶然子ども会の会員さんがイベントに来てくださったってお話をしたところ、次の会合に参加できることになりました。今後は、合同で子どもさん方に楽しんでもらう場をつくるなど、連携の形を探っていきたくですね」ウェルフェア推進課長の須藤弘臣は「こうしたイベントの目的の一つが、団地やまちで活動されているキーパーソンとつながりをもつこ

とです。そういう方々がイベントに興味を示して参加してくださることで、その方のつながりから次への展開が開ける。将来的には、共に連携して、いずれば団地や地域を一緒に盛り上げていきたい、と考えています」と話す。

URでは、団地を地域の資源として活用し、団地を含む地域一体で多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち（ミクススト・コミュニティ）づくりを進めている。今回のイベントも、住むだけでなく、まわりの環境も含めて試行的に使いながらコミュニティをつくり、暮らしをより豊かにするウェルフェアの一つの形でもある。

「団地を地域の資源として生かしながら地域に開くことで、団地と地域の方が垣根なくつながってくだされば」と語る須藤。より暮らしやすく、豊かで居心地よい団地に。URの挑戦と試行錯誤は続く。



こたつで団楽。会話が弾みコミュニティ作りには最適。